

魚津市学校施設長寿命化計画

令和3年3月
令和8年3月改訂

魚津市教育委員会

-目次-

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景と目的等	1
① 背景	
② 目的	
③ 計画期間	
④ 計画の位置づけ	2
⑤ 対象施設	
(2) 学校施設の目指すべき姿	3
(3) 学校施設の実態	4
① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	
1 対象施設一覧	
2 児童生徒数および学級数の変化	5
3 学校施設の配置状況	6
4 施設関連経費の推移	7
5 学校施設の保有量	8
6 今後の維持・更新コスト（従来方型）	9
② 学校施設の老朽化状況の実態	10
1 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価	
2 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化）	12
(4) 学校施設整備の基本的な方針等	13
① 学校施設の規模・配置計画等の方針	
1 学校施設の長寿命化計画の基本方針	
2 学校施設の規模・配置計画等の方針	15
② 改築等の基本的な方針	17
1 長寿命化の方針	
2 目標使用年数、改修周期の設定	
(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	19
① 改修等の整備水準	
② 維持管理の項目・手法等	
(6) 長寿命化の実施計画	20
① 改修等の優先順位付けと実施計画	
② 長寿命化による効果	21
(7) 長寿命化計画の継続的運用方針	22
① 情報基盤の整備と活用	
② 推進体制等の整備	
③ フォローアップ	

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

本市では、昭和40年代から60年代にかけて整備した多くの公共施設の老朽化や、人口減少・少子高齢化の進展に伴う財源不足などの課題を解決すべく、平成26年7月に「公共施設再編方針」を策定しました。この方針に基づき小学校の統合などの取組みを進めてきました。

令和2年3月に、近年の一層厳しい財政状況への対応に加え、現行方針の進捗状況等も踏まえた見直しを実施することで、今後の持続可能な行財政運営を確保しつつ、よりよい公共施設のあり方を目指すことを通じて市民サービスの実現を図るため、「公共施設再編方針（令和元年度改訂版）」を改訂しました。

本市の学校施設は、教育環境の充実に図るため、公共施設再編方針及び魚津市学校規模適正化推進計画に基づき、平成26年1月1日現在12校あった小学校を5校へ統合しました。建物の全体の約41%は築年数が30年以上で、老朽化が進んでおり、限られた財源の中で今後10年～20年間で多くの施設整備を行わなければなりません。施設を可能な限り長期間利用し、施設整備にかかるコストを抑制することを考慮した、学校施設整備の方針・計画を検討する必要があります。

② 目的

本市の学校施設整備の方針・計画を示し学校施設を長寿命化することにより、整備コストの縮減や財政負担の平準化、学校施設に求められる機能・性能の確保を目指します。学校施設の現状把握や分析に基づき、学校施設の教育環境整備を考慮に入れながら、今後の学校施設整備の方向性を検討します。本計画は、公共施設再編方針の個別計画として、市内の学校施設を対象に、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画として「魚津市学校施設長寿命化計画」を策定していくこととします。

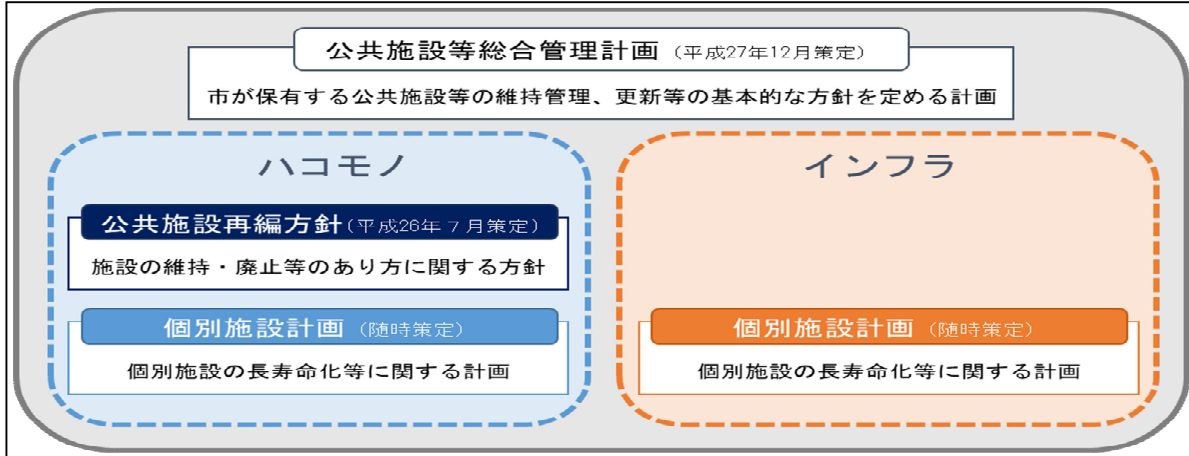
③ 計画期間

令和 年～令和 年ごとに見直し

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年を第1計画期間とし、早期の施設機能の向上や学校長寿命化を進めるための基礎となる取組みを実施します。また、事業の進捗状況や社会情勢の変化を考慮し、5年ごとの見直しを行います。

④ 計画の位置づけ

魚津市における公共施設等総合管理の概念図



魚津市学校施設長寿命化計画

本計画は、魚津市公共施設等総合管理計画のうち、学校施設に対する個別計画とします。

⑤ 対象施設

対象施設	
小学校	5校
中学校	2校
学校給食センター	1施設

※教育センターについては、村木コミュニティセンターの個別計画に準じる。

(2) 学校施設の目指すべき姿

全国的な傾向として、少子高齢化による今後の人口減少を受けて、学校施設に対する需要の変化が生じてきています。令和元年度に策定した魚津市公共施設再編方針では公共施設の総量抑制、有効活用・適正管理、民間活力の活用といった考え方を維持しつつ、「個別施設の再編方針」において、具体的な方針の見直しを行います。学校施設は公共施設において約 26%の割合を占めており、施設の長寿命化だけでなく、将来の人口や社会動向の変化に対応することを見据えた学校施設の目指すべき姿を検討する必要があります。

1 安全性の確保

現時点ですべての学校における耐震化は完了しています。学校施設を長寿命化するにあたり、今後も安全な環境が引き続き維持されなければなりません。

また、学校施設は、災害発生時に避難場所となる役割を担っており、施設自体の耐震性・安全性に加え、避難場所として必要な機能・要素を備えておく必要があります。本計画の 8 対象施設のうち、7 施設が避難場所としての指定があり、当該施設について必要な対策を講じていく必要があります。なお、災害時の避難所として機能させる際、学校施設が地域の拠点として広く認知され、誰もが利用しやすい環境となることが望まれます。つまり、緊急時だけでなく日常的に地域住民に利用される施設づくりが求められています。

2 学習環境の改善

文部科学省の施設整備指針では、教育内容の変化に対応して、多様な学習内容・形態や ICT 化対応などの学習環境を確保し、将来の教育・社会の変化に対応できる柔軟な計画が重要であるとされています。また、児童・生徒の学習及び生活の場として、良好な学校生活環境を確保し、障害のある児童・生徒への配慮や防災性、防犯性等の安全性、更には、省エネ対応などの環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設環境を形成することが必要であるとしています。

本市においても、上記を念頭に置きつつ可能な範囲で配慮した計画を検討し、学習環境の改善を推進していく方針とします。

3 地域施設としての学校

本市では、少子化等により小学校を統廃合し、学校施設の再編を行いました。

学校施設は地域の拠点となる場所であることから、地域に開かれた学校づくりを進めていくことが求められています。

今後、積極的に学校開放を進めるなど、地域に開かれた学校づくりを進めていきます。

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

本市には、学校施設として、小学校 5 校、中学校 2 校の計 7 校、学校給食センター 1 施設があります。

名称	住所	建物面積 (㎡)				児童生徒数 (人)		保有教室数 (室)		
		校舎	体育館	その他	計	通常学級	特別支援	普通	特別	計
星の杜小学校	住吉203	4,705	710	12	5,427	229	11	13	7	20
よつば小学校	本江1041	6,338	1,040	129	7,507	499	17	23	8	31
清流小学校	吉島432	4,362	827	39	5,228	424	14	17	6	23
道下小学校	北鬼江2741	3,962	784	83	4,829	233	10	10	7	17
経田小学校	浜経田665-3	3,503	896	38	4,437	117	6	7	9	16
小学校計		22,870	4,257	301	27,428	1,502	58	70	37	107
西部中学校	友道212	7,194	1,661	567	9,422	412	12	14	21	35
東部中学校	吉島1934	7,040	1,267	649	8,956	404	12	19	18	37
中学校計		14,234	2,928	1,216	18,378	816	24	33	39	72
学校計		37,104	7,185	1,517	45,806	2,318	82	103	76	179
		建物面積 (㎡)								
学校給食センター		1,744								

- ・ 公立学校施設台帳に登録している施設を対象
- ・ 児童生徒数は令和 7 年 5 月 1 日現在の人数

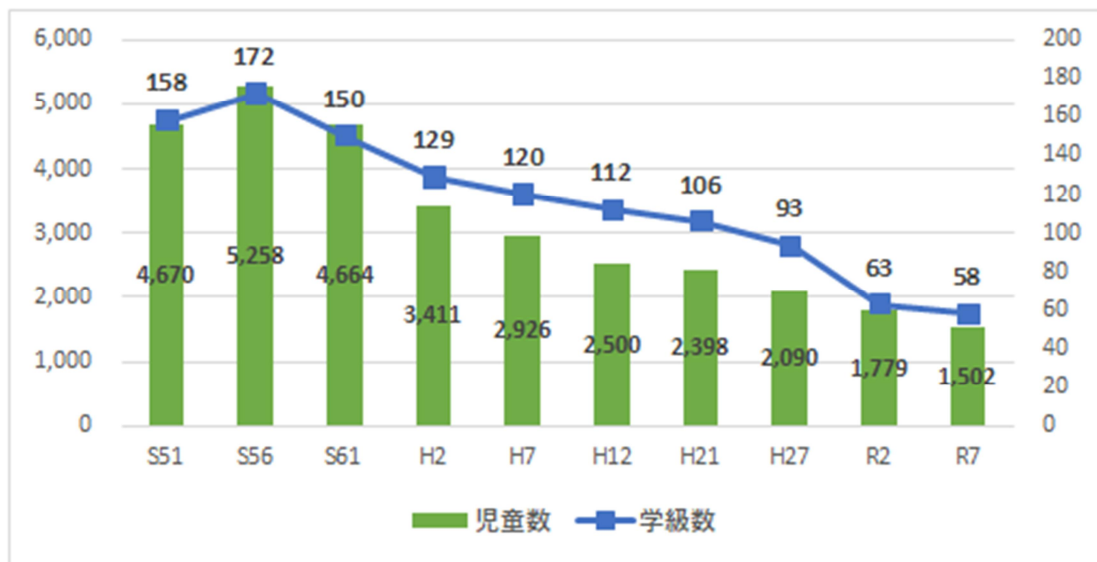
2) 児童生徒数及び学級数の変化

急激な少子化に伴い、市内の児童数は大きく減少しています。文部科学省が定める適正な学校規模は、小中学校ともに1校あたり12～18学級としています。

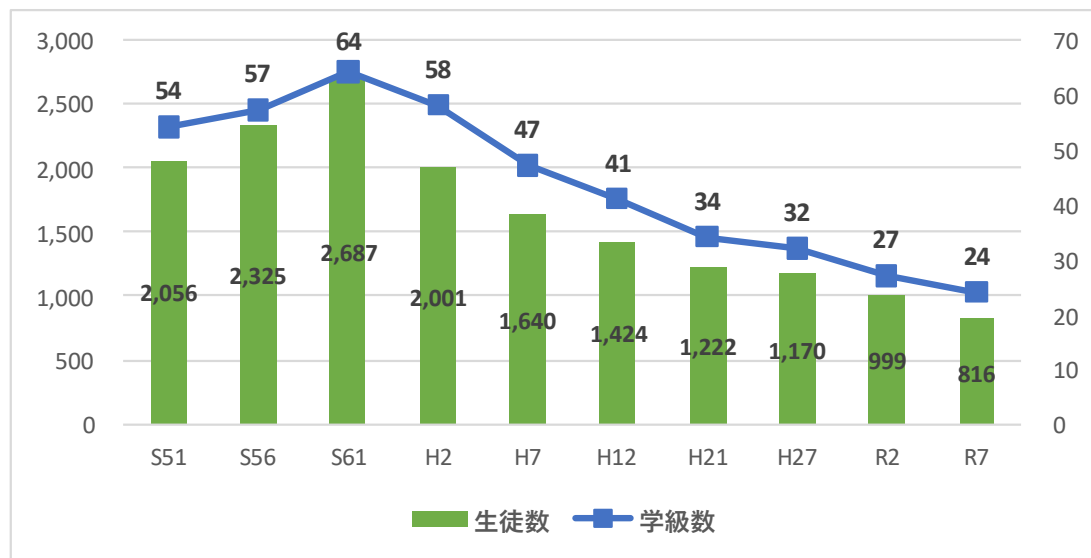
こうしたことから、魚津市教育委員会では、小学校の規模適正化を喫緊の課題ととらえ、平成26年3月に、市内12ある小学校を4つに統合する「魚津市学校規模適正化推進計画」を策定し統合を進め、清流小学校、よつば小学校、星の杜小学校、道下小学校、経田小学校の5校となりました。

中学校も、同様に生徒数・学級数ともに大きく減少しますが、ピーク時は過大規模校であったことから、生徒数の減少により適正規模になるといえます。

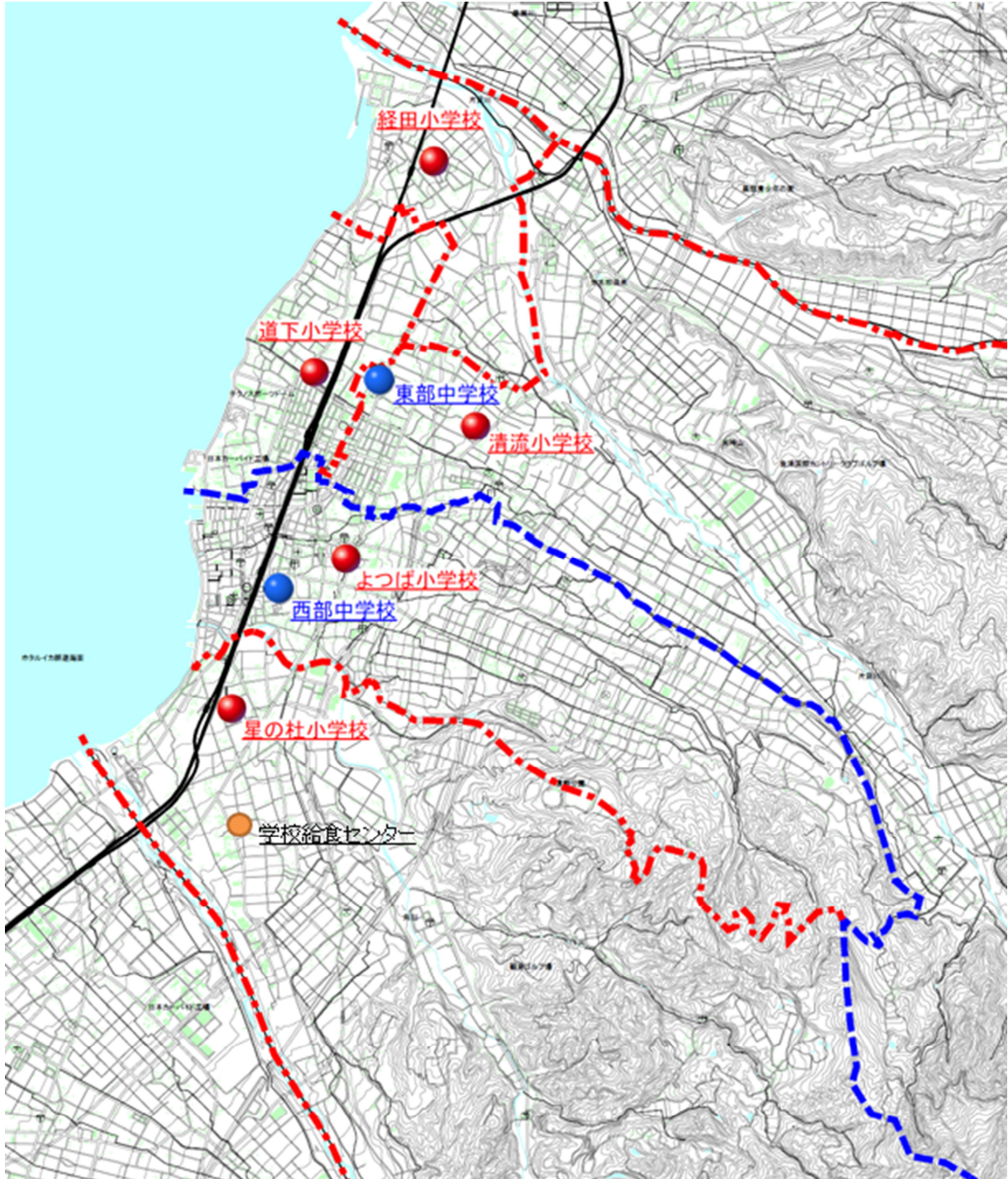
小学校の児童数及び学級数の推移（※R 7.5.1 現在）



中学校の生徒数及び学級数の推移（※R 7.5.1 現在）



3) 学校施設の配置状況



4) 施設関連経費の推移

直近5年間の施設関連経費は、令和4年度に旧上野方小学校及び旧上中島小学校解体、令和4年度から令和5年度に旧松倉小学校解体、令和6年度に旧大町小学校管理教室棟解体したことにより、施設整備費が大きくなっています。

その他施設整備費は、グラウンド及び駐車場整備やキュービクル更新工事を含んでいます。

過去の施設関連経費

	R2	R3	R4	R5	R6
施設整備費	5,390,000	15,455,000	171,332,700	234,049,680	249,907,200
その他施設整備費	3,978,700	6,398,854	36,898,400	35,223,100	21,335,600
維持修繕費	16,994,606	18,131,646	18,232,350	9,057,880	14,039,683
光熱水費・委託費	72,844,860	74,143,750	85,519,153	95,334,829	95,868,871
合計	99,208,166	114,129,250	311,982,603	373,665,489	381,151,354

項目の内容

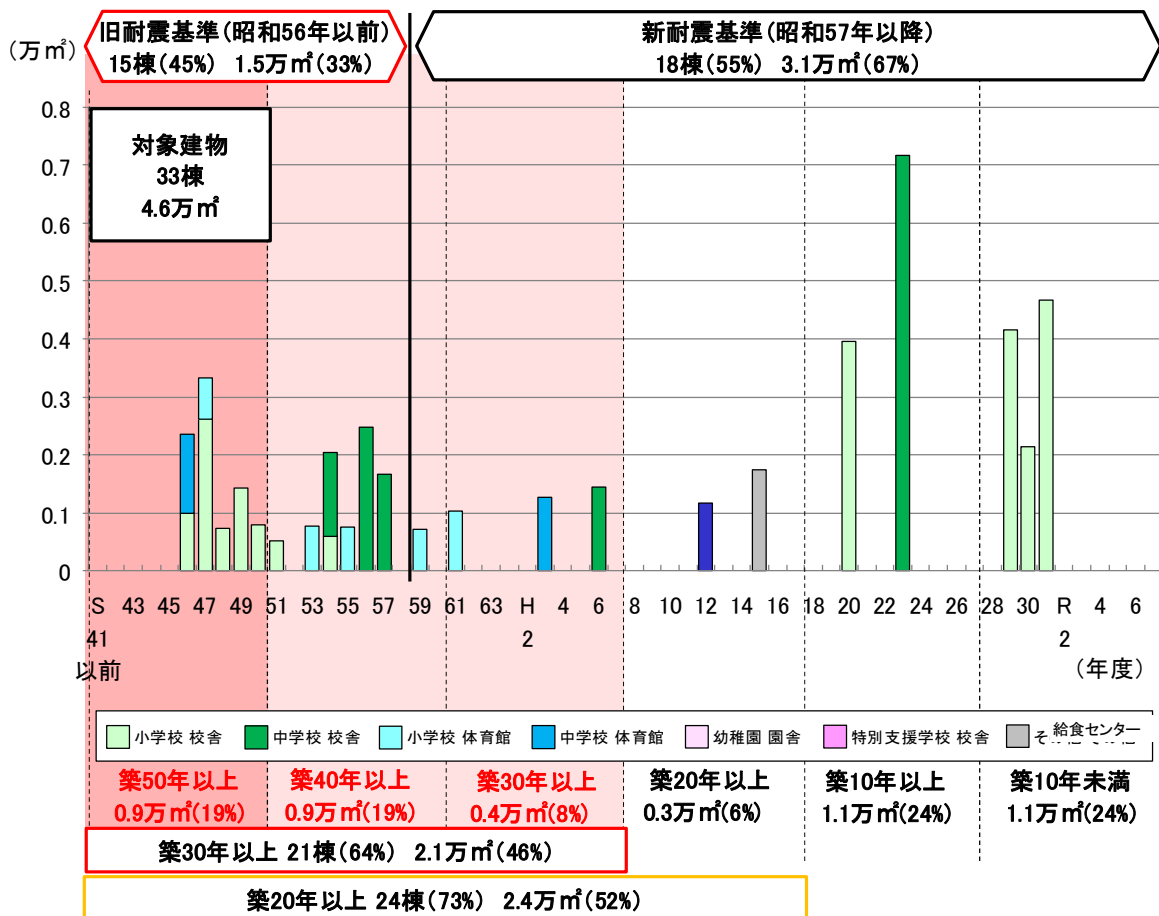
- 施設整備費 : 校舎の新築、大規模改修、旧校舎の解体
- その他の施設整備費 : グラウンド、プールの改修や整備に係る事業費
- 維持修繕費 : 部分補修等に係る経費
- 光熱水費・委託費等 : 上下水道・電気料等の他、警備保障、プール、消防設備、防火設備点検等の委託に係る経費

5) 学校施設の保有量

計画対象の小中学校等は、全体で33棟約4.6万㎡存在し、そのうち築30年以上の建物が約2.1万㎡(46%)と老朽化が進んでいます。また、10年後には24棟約2.4万㎡(52%)が老朽化します。

ただし、築40年以上の建物については、長寿命化による対応の可能性を検討する必要があると考えられます。

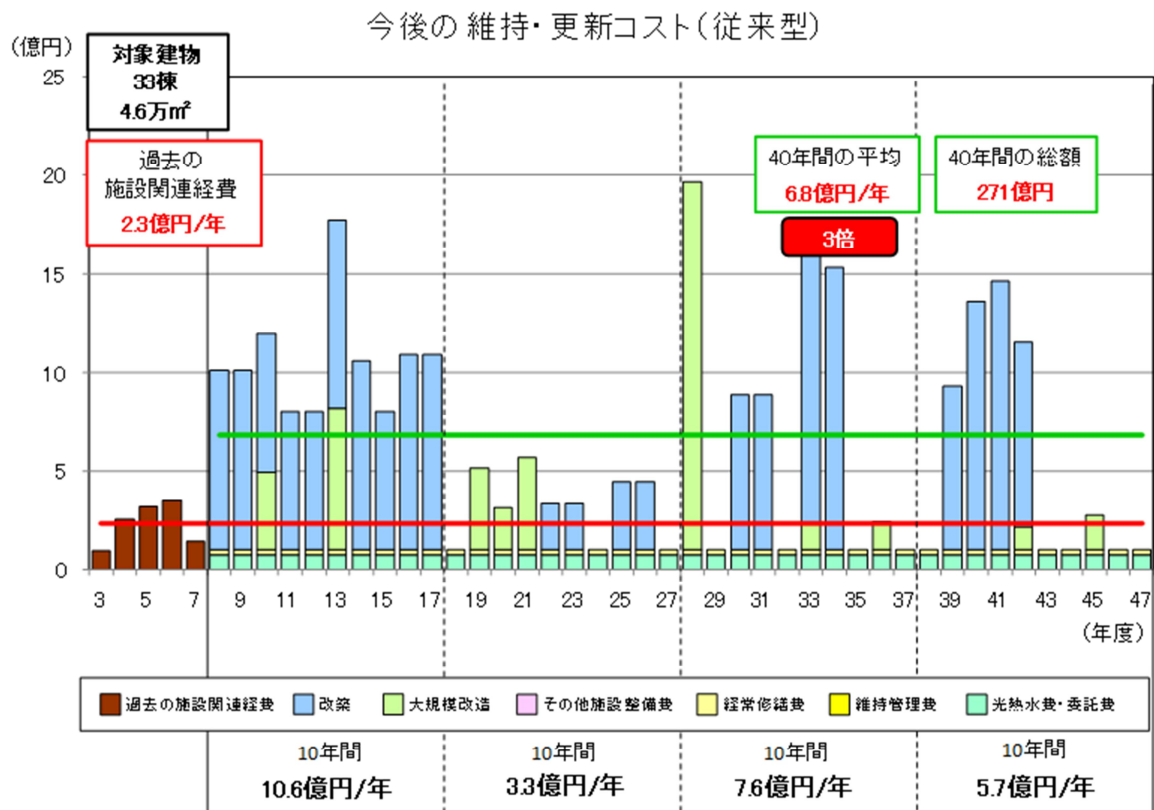
築年別整備状況



6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

40年で建替える従来の修繕・改修を今後も続けた場合、今後40年間のコストは約271億円（6.8億円/年）かかると予想されます。

今後の財政状況を勘案すると、実際の修繕・改修に投資できる経費は限られてくると考えられ、現有施設を維持しながら、従来の建て替え中心の整備を継続することは非常に困難であります。



コスト試算の条件（従来型）

項目	周期	工期	単価（円）/㎡	校舎	体育館	給食センター
改築	60年	2年	改築単価	330,000	360,000	360,000
大規模改造	20年	1年	改修単価	100,000	110,000	110,000

・改築単価及び大規模改造の改修単価は魚津市公共施設再編方針より

②学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

今後の施設管理を考える上で施設の状態を整理します。劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価します。

なお、計画対象施設の耐震化率は100%です。

建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価								
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分			延床面積(㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		調査年度	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)	
					学校種別	建物用途	構造		階数	西暦		和暦	基準	診断	補強	調査年度								圧縮強度(N/㎡)
1	270	星の杜小学校	南A棟	15	小学校	校舎	W	3	2,104	2019	H31	6	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
2	270	星の杜小学校	南B棟	16	小学校	校舎	W	3	268	2019	H31	6	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
3	270	星の杜小学校	北棟	17	小学校	校舎	W	2	2,025	2019	H31	6	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
4	270	星の杜小学校	西棟	18	小学校	校舎	W	1	282	2019	H31	6	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
5	270	星の杜小学校	屋内運動場	12	小学校	体育館	R	1	710	1984	S59	41	新				長寿命	R7	D	C	D	C	A	34
6	269	よつば小学校	教室棟	20	小学校	校舎	R	3	3,146	2017	H29	8	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
7	269	よつば小学校	管理特別教室棟	21	小学校	校舎	R	3	1,010	2017	H29	8	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
8	269	よつば小学校	管理特別教室棟	21	小学校	校舎	R	3	2,147	2018	H30	7	新				長寿命	R7	A	A	A	A	A	100
9	269	よつば小学校	屋内運動場	17	小学校	体育館	R	2	915	1986	S61	39	新				長寿命	R7	A	C	C	C	A	52
10	269	よつば小学校	屋内運動場	17	小学校	体育館	R	1	125	1986	S61	39	新				長寿命	R7	A	C	C	C	A	52
11	262	道下小学校	校舎棟	9	小学校	校舎	R	3	3,954	2008	H20	17	新				長寿命	R7	B	B	A	A	A	91
12	262	道下小学校	屋内運動場	7-1	小学校	体育館	R	1	700	1978	S53	47	旧	済	-	無	長寿命	R7	C	C	B	C	A	60
13	262	道下小学校	屋内運動場	7-2	小学校	体育館	S	1	84	1978	S53	47	旧	-			長寿命	R7	C	C	B	C	A	60
14	263	経田小学校	普教棟	5-1	小学校	校舎	R	3	744	1973	S48	52	旧	済	済	無	長寿命	R7	C	C	C	C	C	40
15	263	経田小学校	特教棟	5-2	小学校	校舎	R	3	1,427	1974	S49	51	旧	済	済	無	長寿命	R7	C	C	C	C	C	40
16	263	経田小学校	管理教室棟	5-3	小学校	校舎	R	3	791	1975	S50	50	旧	済	済	H8 19.7	長寿命	R7	C	C	C	C	C	40
17	263	経田小学校	普教棟	5-4	小学校	校舎	R	3	510	1976	S51	49	旧	済	済	無	長寿命	R7	C	C	C	C	C	40
18	263	経田小学校	屋内運動場	9	小学校	体育館	R	1	763	1980	S55	45	旧	済	済	H22 37.2	長寿命	R7	A	C	A	B	A	80
19	268	清流小学校	教室棟	1-1	小学校	校舎	R	3	992	1971	S46	54	旧	済	済	H19 24.3	長寿命	R7	A	B	C	B	C	60
20	268	清流小学校	教室棟	1-2	小学校	校舎	R	3	2,245	1972	S47	53	旧	済	済	H19 19.8	長寿命	R7	A	B	C	B	C	60
21	268	清流小学校	教室棟	1-3	小学校	校舎	R	3	372	1972	S47	53	旧	済	済	H19 21.5	長寿命	R7	A	B	C	B	C	60
22	268	清流小学校	教室棟	1-4	小学校	校舎	R	3	596	1979	S54	46	旧	済	済	H19 27.3	長寿命	R7	A	B	C	B	C	60
23	268	清流小学校	屋内運動場	2	小学校	体育館	R	1	706	1972	S47	53	旧	済	済	H20 21.3	長寿命	R7	C	C	B	C	A	60
24	3630	西部中学校	校舎棟	15	中学校	校舎	R	3	7,171	2011	H23	14	新				長寿命	R7	B	B	A	A	A	91
25	3630	西部中学校	屋内運動場	6	中学校	体育館	R	2	1,358	1971	S46	54	旧	済	済	H9 16.4	長寿命	R7	B	B	B	A	A	81
26	3630	西部中学校	武道場	14	中学校	武道場	R	1	567	2000	H12	25	新				長寿命	R7	A	B	B	B	B	77
27	3632	東部中学校	教室棟	12	中学校	校舎	R	4	1,440	1979	S54	46	旧	済	済	H23 25	長寿命	R7	A	C	C	C	C	45
28	3632	東部中学校	管理教室棟	13	中学校	校舎	R	4	2,479	1981	S56	44	旧	済	済	H23 22.5	長寿命	R7	A	C	C	C	C	45
29	3632	東部中学校	特別教室棟	14	中学校	校舎	R	4	1,660	1982	S57	43	新	済	済	H23 25.6	長寿命	R7	A	C	C	C	C	45
30	3632	東部中学校	屋内運動場	16	中学校	体育館	R	2	1,267	1991	H3	34	新				長寿命	R7	B	B	B	B	B	75
31	3632	東部中学校	特別教室棟	17	中学校	校舎	R	3	1,444	1994	H6	31	新				長寿命	R7	B	B	B	B	B	75
32	3630	東部中学校	武道場	20	中学校	武道場	R	1	606	2000	H12	25	新				長寿命	R7	B	B	B	B	B	75
33	K040	学校給食センター	給食センター	3	給食センター	給食センター	S	2	1,744	2003	H15	22	新				長寿命	R7	B	B	B	B	B	75

・調査・評価方法

構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年から経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価する。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

・健全度の算定

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し100点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト部分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3

合計	60.0
----	------

③健全度

総和(部位の評価点×部位のコスト配分)÷60

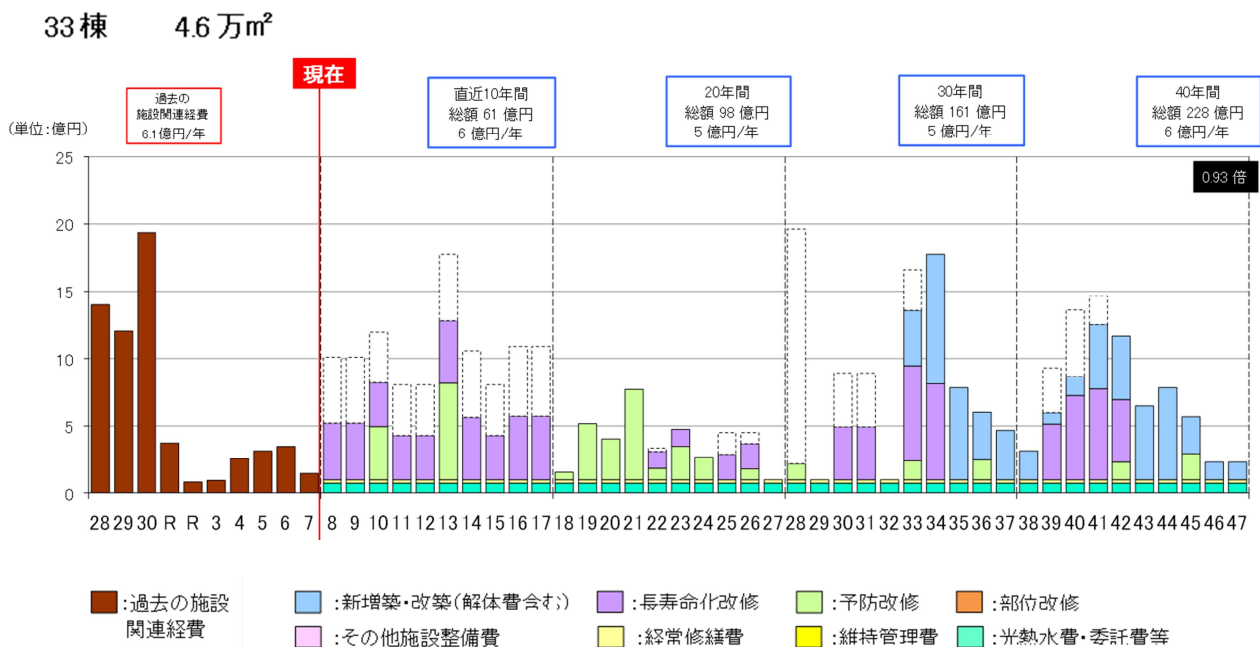
*100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っています。

*健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

施設を効率よく維持していくために、現在保有する施設を建て替え中心から、改修による長寿命化に切り替えていく方法があります。そのためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。

建物を長寿命化改修により 80 年程度長寿命化した場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額約 228 億円（5.7 億円/年）となり、従来の建て替え中心の場合の 271 億円（6.8 億円/年）より総額 43 億円（1.1 億円/年）、約 16%の縮減となります。



コスト試算の条件（長寿命化）

項目	周期	工期	単価 (円) /m ²	校舎	体育館	給食センター
改築	60 年	2 年	改築単価	330,000	360,000	360,000
大規模改造	20 年	1 年	改修単価	100,000	110,000	110,000
長寿命化	40 年	1 年	改修単価	198,000	216,000	216,000

- ・改築単価及び大規模改造の改修単価は魚津市公共施設再編方針より
- ・長寿命化の改修単価は改築単価×60% 学校施設長寿命化計画策定に係る解説書より

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

<p>公共施設等総合管理計画の基本方針</p>	<p>公共施設については、再編方針に従い、着実に再編に向けた取り組みを進めることとし、再編方針において予定していない新規の公共施設を建設する場合は、今後更新予定としている公共施設の整備を同面積・同費用程度と取りやめるなど、方針を堅持します。</p> <p>そのうえで再編方針で示しているとおり、平成 25 年度における人口一人当たり公共施設面積 (4.42 ㎡/人) を目標値として捉え、公共施設再編後の人口一人当たり公共施設面積が当該目標値を超えていないか確認を行っていくこととします。ただし、人口動態を踏まえ、必要に応じて 5 年程度で再編方針の見直しを行っていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保有総量の抑制 ② 保有施設の有効活用・適正管理 ③ 施設の長寿命化 ④ 施設のユニバーサルデザイン化 ⑤ 施設の脱炭素化 ⑥ 民間活力の活用
<p>公共施設再編方針の施設類型別方針 【学校等】</p>	<p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の充実を図るため、児童数の推移等を見ながら、令和 15 年度までに小学校を 4 校に統合する。 ・統合後の小学校は、施設の整備・補修計画に沿って、施設の長寿命化を図りながら、引き続き維持する。 ・閉校となる小学校の跡地の利活用は、民間への譲渡を含め、幅広く検討する。 ・新設校に集約できる機能は集約していく。 <p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備・補修計画に沿って、施設の長寿命化を図りながら、引き続き維持する。 <p>学校給食センター・教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備・補修計画に沿って、施設の長寿命化を図りながら、引き続き維持する。





学校施設の長寿命化計画の
基本方針

今後、劣化状況評価に基づき、目標耐用年数である80年まで安全に使用できる状態を確保するため、建物の健全性を回復する改修を計画的に実施します。

その際、財政状況を踏まえ、中長期の財政負担を抑制しつつ、教育環境の質の向上や新たな社会的ニーズへの対応を可能とする、効果的かつ効率的な改修のあり方を検討します。

また、改修内容や優先順位については、魚津市教育振興基本計画の方向性と整合を図りながら進めるとともに、令和8年度から立ち上げ予定である（仮称）魚津市小中学校教育のあり方庁内検討会においても、教育の将来像や学校の役割に照らして適切な検討を行います。

さらに、社会情勢や市民ニーズの変化を的確に捉え、5年ごとに長寿命化計画の見直しを行い、財政負担の平準化やライフサイクルコストの削減を推進します。

2) 学校施設の規模・配置計画等の方針（魚津市学校規模適正化推進計画より）

1 適正規模についての基本的な考え方

子どもたちは、学校での集団生活を通して、協調や対立、共感や反発などの多様な人間関係を体験し学ぶことで社会性や集団性を培い、成長を遂げていくものです。そのためには、様々な見方・考え方や経験を持っている友達との出会いが大切であり、互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨できる教育環境を整えることが重要です。また、教員と子どもの関係からみると、各学年に複数の学級があり、様々な個性をもつ多くの教員と触れ合うことができる環境は、子どもたちが持ち味やよさをより発揮し、潜在的な能力を伸ばしていくことにつながると考えられます。

学校がもつこうした役割を十分に発揮するためには、適正な児童・生徒数や学級数を確保し、活力ある学校づくりを目指すことが必要です。

また、これまで以上に小中学校間の連携を密にし、小中学校の円滑な接続を目指します。

(1) 児童生徒の教育環境の充実

- ・多様なものの見方や考え方もつ児童生徒が出会い、学び合う中で、自分の考えや表現を深めたり広めたりできる学校規模であること。
- ・クラス替えを通じて、新たな人間関係を生じ、多くの友達や教員と出会うことで、集団でのルールを学び、社会性や協調性を身につけ、心身ともにたくましく成長する学校規模であること。
- ・学級間の相互啓発がなされ、共に努力してよりよい集団を目指すことができる学級規模であること。
- ・学習や部活動、学校行事等において多様な選択肢を提供できる学校規模であること。

(2) 適切な学校運営

- ・教員間の協力体制や校務分掌、学年事務が無理なく分担できる教員配置が可能な学校規模であること。
- ・緊急時や学級運営上問題が生じた場合に適切な支援体制を組むことができ、同学年の教員同士で相談や研修ができ、互いに切磋琢磨していける学校規模であること。
- ・特別教室や体育館などの施設利用に制約を受けることなく、十分な活動が可能な学校規模であること。

2 学校の適正規模

本市の目指す学校教育の姿を実現するため、上記の適正規模についての基本的な考え方を踏まえ、本市における学校の適正規模を次のとおりとしています。

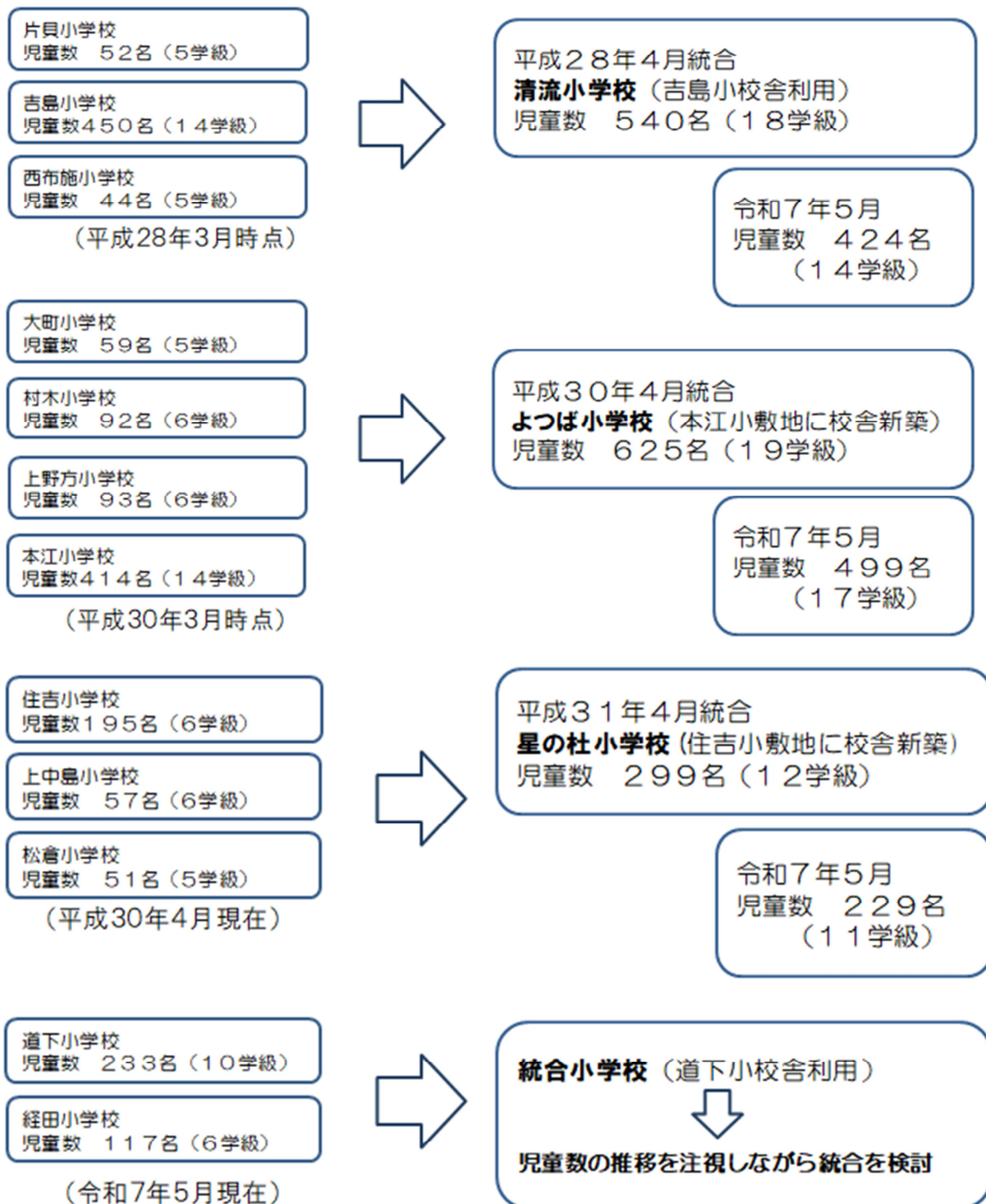
【小学校】 1校あたり 12～18 学級 （1 学年 2～3 学級）

【中学校】 1校あたり 12～18 学級 （1 学年 4～6 学級）

平成26年3月に、市内に12ある小学校を4つに統合する「魚津市学校規模適正化推進計画」により統合を進め、清流小学校、よつば小学校、星の杜小学校、道下小学校、経田小学校の5校となりました。中学校については、規模適正化の検討は行わないこととしています。

なお、令和5年2月に今後の取り組みに活かすため同計画の検証を行った結果、令和3年度の学級編制標準の引き下げ（40人→35人）や、特別支援学級の児童数の増加より、当初の想定より学級数が減少していないことが明らかとなりました。

統廃合が未済の学校については、対象地域の児童数の推移を注視し、統合に向けた検討と調整を継続していきます。



② 改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

・長寿命化の方針

中長期的な維持・改築等に係るトータルコストの削減・予算の平準化を実施するため、適切な時期に大規模改造や長寿命化改修を実施することを前提に、すべての建築物の目標耐用年数を 80 年とします。

ただし、建築後 40 年程度経過した施設など、目標耐用年数までの期間が少なく老朽化が著しい建物については、長寿命化をおこなうことによりかえって財政への負担が増加する可能性があることから、その時の財政状況や費用対効果を検証しながら、長寿命化改修の実施の有無や対策メニューを検討していきます。

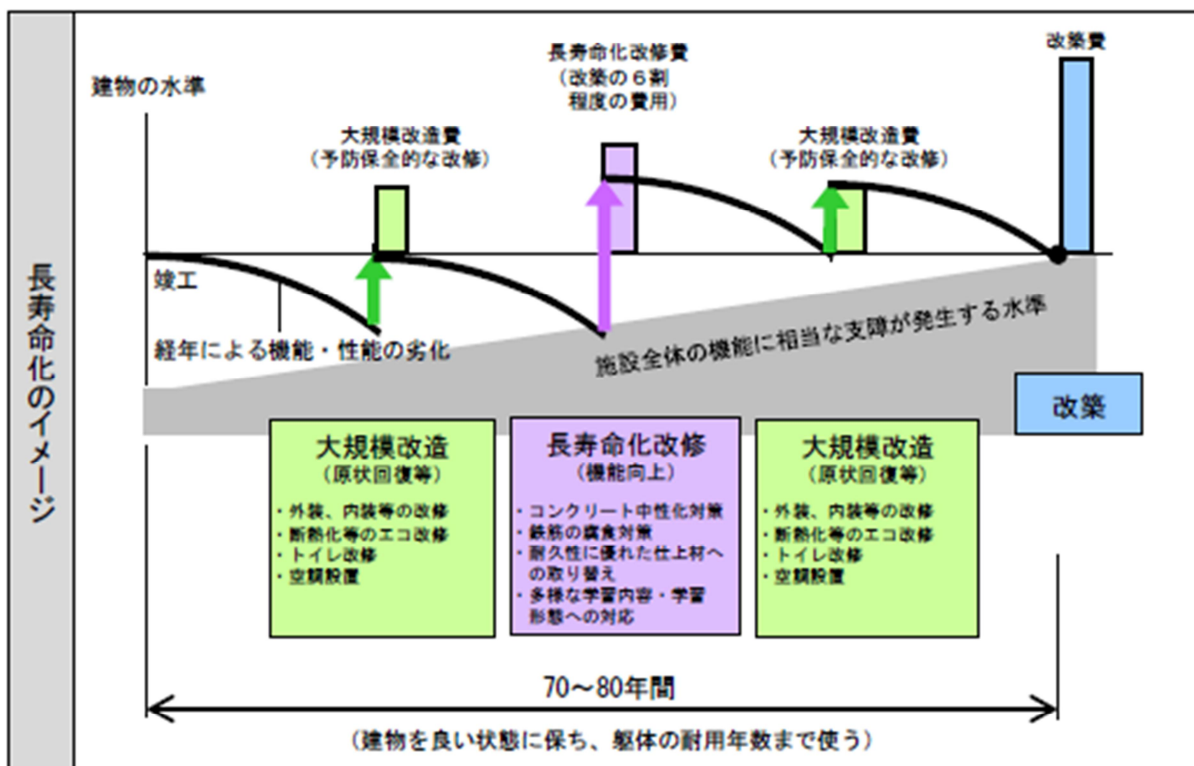
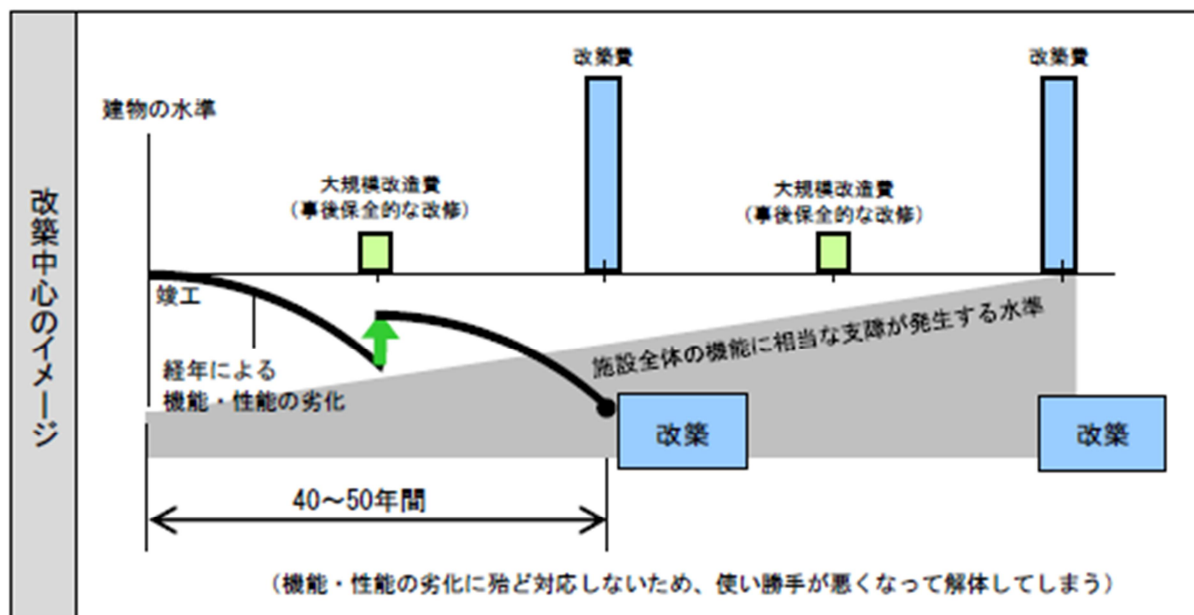
・目標耐用年数、改修周期の設定

本市の学校施設等においては、前述した長寿命化の方針に従い、長寿命化改修の実施が適当とされる施設については、建築後 80 年まで使用することを目標に、大規模改造を建築後 20 年と 60 年、長寿命化改修を建築後 40 年で実施していくことを基本とします。

2) 目標使用年数、改修周期の設定

目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
80 年	築 20 年／60 年	築 40 年

改築中心から長寿命化への転換イメージ



(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

本市では、前述の基本的な方針で示したように、施設の安全性の確保及び財政負担の軽減・平準化の観点から、適切な時期に長寿命化改修を実施、目標耐用年数を概ね 80 年とした施設の長寿命化を図ります。

長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみではなく、ライフラインの更新等により建物の耐久性を向上させるとともに、建物の機能や性能を現在の学校が求めている水準まで、引き上げることを目指します。

② 維持管理の項目・手法等

長寿命化を図るためには、定期的に改修工事を行うだけでなく、日常的、定期的に施設の点検や清掃、情報管理を行う必要があります。日常的、定期的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

<維持管理の項目・手法例>

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当者
日常的な点検	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる。	1 週、1 か月 半年、1 年等 周期を設定	施設管理者、施設設置者
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。		専門業者
臨時的な点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時的な点検。	故障警報等 随時実施	施設管理者、施設設置者、専門業者
清掃	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する。	各点検に合わせて随時実施	施設管理者、専門業者
情報管理	図面デジタル化	学校施設の図面をデジタル化・管理し、点検や現状把握の際に活用する。	-	施設設置者
	点検結果入力	点検・工事の履歴を作成し、各学校施設の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検に合わせて随時実施	施設設置者
	工事履歴作成		改修・修繕後に実施	施設設置者

(6) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画

改修等の優先順位づけ

建築年度または長寿命化改修実施年度から経過年数が大きい施設から優先的に実施するものとなりますが、点検結果や施設の利用状況等の要因により実施時期が前後する場合があります。

また、建物の健全性の回復を図るタイミングにあわせて、財政状況を考慮したうえで、教育環境の改善や社会的なニーズに対応するための改修を行っていきます。

今後の実施計画

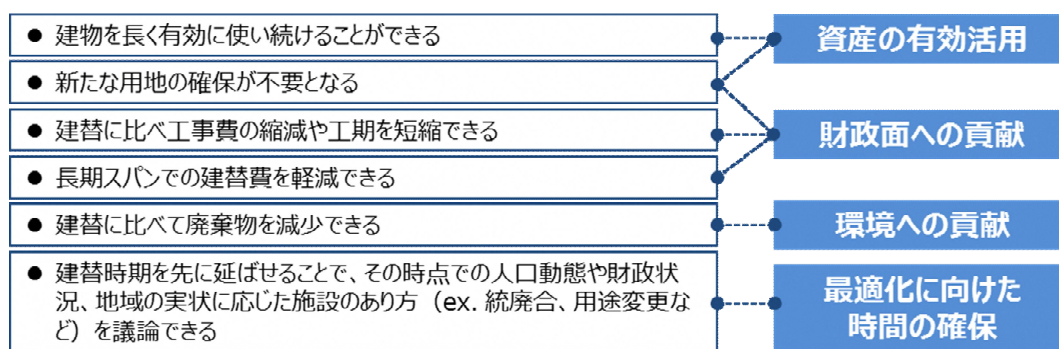
施設名	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		令和12年度	
	事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費
星の杜小学校										
星の杜小学校体育館										
よつば小学校										
よつば小学校体育館										
道下小学校			プール解体	24,420						
道下小学校体育館										
経田小学校			外壁改修	100,000	プール解体	20,000				
経田小学校体育館										
清流小学校	プール解体	25,000	土俵改修	14,707						
	防犯システム	2,233	遊具設置	5,896						
	内窓改修	25,124								
清流小学校体育館										
西部中学校	校内照明LED化	53,900								
西部中学校体育館			長寿命化・空調設置	177,030						
西部中学校武道場										
東部中学校							プール解体	20,000		
東部中学校体育館			長寿命化・空調設置	150,240						
東部中学校武道場										
学校給食センター	空調設置	54,000	備品更新	30,000	備品更新	26,000	備品更新	41,000	備品更新	40,000
	備品更新	20,000								
合計		160,257		502,293		46,000		61,000		40,000

※小学校体育館の空調設置については検討中

② 長寿命化による効果

学校施設の長寿命化を図ることで、下図のように「資産の有効活用」、「財政面への貢献」、「環境への貢献」、「学校施設配置の最適化に向けた時間の確保」など、様々な効果が期待できます。

<長寿命化により期待できる効果>



(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

長寿命化改修実施計画を見直し適切に更新するために、学校施設における過去の改修・修繕履歴や各施設の状態を把握することが重要になります。

「第3章 4. 学校施設の老朽化状況」において把握した項目、評価や、「第5章 2. 維持管理の項目・手法等」において設定した維持管理項目の点検・調査結果を基に、施設の状態や過去の改修履歴、不具合状況等をデータベース化し、学校施設の基本情報を管理する「公立学校施設台帳」と合わせて保管・蓄積します。

② 推進体制等の整備

建物の長寿命化を図るために必要となる継続的な点検や計画の更新に際して、施設設置者、施設管理者、設計実務者等の専門業者及び関連部署との連携が重要になります。

長寿命化改修の内容や施設ごとの調整、計画のスケジュール管理など、体制の中で統一的な考え方を持った上で推進する必要があります。

③ フォローアップ

学校教育を取り巻く環境の変化や児童生徒数の推移、社会情勢の変化等に対応するため、PDCAサイクルによる随時見直しを行い、実現性・執行性を確保した計画とします。